

生産性損失額が最も大きい健康問題は？

健康問題を抱えながら働くことで生産性が低下するプレゼンティーイズムは、欠勤よりも経済的影響が大きいと報告されており、社会的な課題になっています。このたび、日本人労働者 1 万例を対象にアンケートを実施し、プレゼンティーイズムにつながる健康問題および生産性損失について検討した結果が報告され、3 人に 1 人以上が仕事に支障を来す健康問題を経験していることが明らかとなりました。

検討の結果、仕事に支障を来す健康問題として最も多かったのは 20 歳代は精神疾患、30 歳代は肩凝り、40 歳代以降は腰痛が最多でありました。内訳は、20 歳代は精神疾患、腰痛、首の痛み・肩凝り。30 歳代は首の痛み・肩凝り、腰痛、頭痛。40 歳代は腰痛、首の痛み・肩凝り、頭痛。50 歳代は腰痛、首の痛み・肩凝り、目の問題。60 歳代でも腰痛、首の痛み・肩凝り、腕や脚の関節痛・障害でありました。